

## 2024年度パース日本人学校学習発表会での挨拶

おはようございます。2024年度のパース日本人学校学習発表会の開催にあたり、来賓を代表いたしまして、ひとことご挨拶を申し上げます。

パース日本人学校の学習発表会に出席させて頂くのは今回で3回目になります。毎年とても楽しみにしています。一昨年は生徒全員でのピーターパン、昨年は空気砲の科学実験を私自身も体験させて頂きました。どれも素晴らしい学習発表会でした。そして今年は、本日の学習発表会で皆さんの日頃の成果を見せて頂けるのを楽しみにして来ました。

先月、全日空のパース・成田直行便が再び再開し、今後は1年を通じて運行するという嬉しいニュースがありました。既にご利用された方々も多くおられるかと思いますが、今後さらに日本と西豪州の往来が増え、人と人との交流が活発になることと思います。過去1年、これはオーストラリア全体ですが、約80万人のオーストラリア人が訪日し、日本からは約30万人がオーストラリアを訪問しています。西豪州では直行便の再開が往来増加の最大の要因でした。先週はパース市長、先々週は西豪州総督も訪日されております。

そして来年は4月から半年間、大阪・関西万博が開催されますので100万人近いオーストラリア人が訪日することが期待されています。パース直行便は昨年10月のコロナ後の再開後、途中5ヶ月間のお休みもありましたが、困難はあっても粘り強く努力を続ければ必ず道は開けることを示して頂きました。関係者のご努力に感謝をしております。

本日は、かつて日本人学校の先生をつとめた家内、内藤晴美先生も参加をさせて頂いています。私たちの長男、次男、長女と3人の子供、そして私自身を含む5人の家族全員が、アフリカやアジアの日本人学校にお世話になりました。ですので、いつも特別な想いでパース日本人学校を応援をしております。

私たちの長男は今、アフリカのウガンダの奥地でセーブザチルドレンというNGOを代表し、難民を含む子供たちの支援を行っています。週末は日本語補習校の先生をして恩返しをしております。ナイロビ日本人学校の校訓は「たくましくアフリカの大地を駆け抜ける風になれ」というものですが、長男の例は、アフリカの日本人学校での体験が芽を出したひとつの形かと思います。

今日の学習発表会では、皆さんが日々学び、大好きな家族と一緒に暮らしているパースという街がどういう土地なのか、普段は空気のようにあたりまえとなっているかもしれませんが、掘り下げて考えて見る良い機会ですね。きっと新しい発見があると思います。そして後で振り返った時の想いや愛着も深まると思います。

保護者の皆様、学校運営委員会の皆様、そして日本人学校の先生方におかれては、学習環境を高めるため日々のご尽力とご苦勞に心より感謝申し上げます。

生徒のみなさん、日本人学校で育んだ、世界から日本を見る目、感受性の鋭いみなさんの洞察力で感じたことは、将来、必ず芽を出します。ですので、学習発表会の今日の日を楽しみながら、それぞれの心のアルバムに焼きつけて頂きたいと思います。みなさん ひとりひとりの個性の輝きに注目をしています。

ありがとうございました。

以上